

ならねばわたりぬ、思ひしよりはあやふげもなかりき。

浪風のあらゐの海をうれしくも心やすくぞわたりはてぬる

天龍川渡

(藻鹽草水邊)川

天中川 河は遠州、やはの湖の末也と云々。

〔橋窓自語下〕西行法師が發心記といふものに東の方へくだるに遠江の國天中の渡り云々とあるは、今遠江濱松の驛と見附驛のあはひにある天龍川の事なり、天龍を天中河といふは、龍の梵語なりといふよし、ある人の語れりされば天龍河とかきて、則あめなか河とよまる、なり、又海道記に、あまみつそらの中川の水とよめるはあしく、あめなか河といふべし、十六夜日記には天龍の渡りともあればむかしより天龍ともいひしなり。

〔十六夜日記殘月抄〕天りうのわたり、遠江國圖に、長下郡天龍寺村有、江戸砂子四下に、護本山天龍寺、もと遠州天龍川の邊にあり、江府へうつりて牛込淨るり坂下の邊にあり、かの所を元天龍寺前といふなり、そののちまた四谷へうつるとみえたれば、この天龍寺より河の名に呼しなり、いにしへは麿玉河とも、天の中川ともいへり。

〔羅山文集雜著六十一〕本朝地理志略

東海道十五箇國○中

遠江國 天龍河、其支流曰小天龍、河面廣而無橋、土人棹艇渡旅客官家往還時架浮梁。

〔東遊行囊抄八〕天龍川、或ハ天中川共云、船渡ノ大河也。或時ハ二瀬トナリテ大天龍、小天龍ト號或時ハ一瀬共ナリ、又或時ハ三瀬トモナル、水底砂石ヲ流シテ瀬常ニ不定、此川ノ水上ハ、信州諏方ノ湖也、北ヨリ南ニ流テ海ニ入所ハ、懸塚貝塚ナド云港也、此川ノ海ニ入所ノ沖ヲ天龍灘トイフナリ。